

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善策
「明日が楽しみ、笑顔いっぱい若宮小学校」 ○子どもたちが通いたくなる学校 ・わかる授業 ・成功体験の積み重ね ・自分の居場所がある環境 ○保護者や地域が通わせたい学校 ・子どもたちが生き生きとして学校に行き、地域の中でも元気な挨拶が聞こえる環境 ○教職員が働きたくなる学校 ・保護者・地域の信頼に応えるため、「チーム若宮」として職員一丸となって実践的指導力の向上に努める教師		確かな学力を育成する。	・「若宮ノート」の活用を見直し、学習規律の定着や学び方指導を全職員で徹底する。 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現できるよう、全職員が指導案を作成した授業研究に取り組み、わかる授業づくりをめざして授業改善に取り組む。 ・不登校傾向児童への個別対応を引き続き行うとともに、個を大切にす学級経営ができるようにする。
		不登校傾向児童の減少と規範意識の向上に取り組む。	・「ヒヤリハットノート」の活用を続け、学校全体の危機管理意識の向上に努める。
		望ましい人間関係を構築する	・各学級での人間関係づくりの取組を計画的、系統的に実施し、安心して過ごせる居心地の良い環境づくりをめざす。 ・つながりを重視したカリキュラムを作成し、実行する。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
確かな学力の定着	「若宮ノート」に基づいて学習規律の振り返りを行い、指導の重点化を図る。(取組指標)	・全学級で目標を達成できた。「若宮ノート」で家庭学習を把握できたが、個人差があるため、今後は個別の指導を要する。 ・前期は学習規律定着に重点をおいた授業研究、後期はテーマである主体的・対話的で深い学びに重点をおいた授業研究を全員実施し、わかる授業を目指した取組を進め、授業改善につなげることができた。 ・国語に関しては、6年A以外は「同程度である」であったが、算数は3年生のみ「同程度である」で、他	
	学習規律項目における児童の自己評価を85%にする。(成果指標)		
	授業改善の3つのポイントを授業への位置づけとして徹底し、誰もがわかる授業を展開する。(取組指標)		
	国語と算数のテスト結果(全国学力テスト・学習定着度調査・全校テスト)が標準と比べて「同程度」となる。(成果指標)		
「学びのユニバーサルデザイン」の共通実践による生徒指導の充実と安全指導の徹底	「若宮ノート」に基づいて生活規律の振り返りを行い、指導の重点化を図る。(取組指標)	・「若宮ノート」に基づいた生活規律の定着においては、全職員で共通理解・共通実践をすることができた。特別な指導を要する場合は、担当が共通指導資料を配付し、徹底することができた。 ・振り返りアンケートでは全学年9割以上が85%以上となっている。 ・毎週水曜日に「ヒヤリハットノート」を記入し提出するようにした。やや遅れることもあったが、危機意識は高められた。病院利用数も前年度の8割となっている。	
	生徒指導項目における児童の自己評価を85%にする。(成果指標)		
	危機管理・未然防止のため「ヒヤリハットノートで安全ノート」の取組を毎週行う。(取組指標)		
児童個々の自尊感情の育成と、望ましい人間関係づくりの構築	Q-Uアンケートや毎月のアンケート、振り返りカード、教育相談週間を実施する。(取組指標)	・アンケートや振り返りを計画的に行い、児童の様子を把握することができた。教育相談週間は、アンケートをもとに個別に話のできたので、効果的であった。職員の肯定的評価は約90%である。 ・人間関係づくり学習を取り入れながら、自己や他者を大切にする社会的スキルを高める取組を進めた。しかし、計画通りに実施できなかった学年もあったので、系統性や実施時期などの計画を見直す必要がある。 ・児童の肯定的評価は約80%である。	
	アンケート等の結果を共有し、即対応、チームで取り組む。明日が楽しい学校肯定評価85%以上。(成果指標)		
	総合や特活などに人間関係作りのスキルを系統的計画的に取り入れ、実生活で生かす取組を進める。(取組指標)		
	振り返りカードでの自己評価で、肯定的評価85%(言葉について)を達成する。(成果指標)		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
・お別れ集会を参観し、6年生の姿はもちろん、在校生の子どもたちの姿からも、温かい人間関係ができていることがよくわかった。子どもどうしのよいつながり、尊敬する心や思いやりが育っている。子ども達のピュアな気持ちを大切にしていることが嬉しい。わいわい広場などで見ていると、人間関係づくり学習が生かされている場面がよくある。 ・人権教育で、子どもたちを呼び捨てにせず「さん」つけて呼ぶことなどとても大切なことなので、保幼小などで連携していくとよい。 ・サポーター会議における学校教育の説明で、学校の取組成果等が数値化されていてわかりやすい。学力向上は難しいだろうが、これからも取組を続けてほしい。 ・新時制など、新年度からではなく、見直しをもって前もって取り組み始めることはとても良い。			